

平成30年度
発生予察情報

特殊報第1号

平成30年5月30日
埼玉県病虫害防除所
(TEL:048-539-0661)

トビイロシワアリについて

定植されたキャベツ及びブロッコリーの苗の根元が加害されて枯死する被害が発生した。地際部には多数のアリと食害痕が確認された。採取したアリの形態的特徴からトビイロシワアリであることが判明した。

* 特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に、当該有害動植物の特性、防除方法等に関する情報を提供するものです。

1 害虫名 トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* Emery

2 発生経過

- (1) 平成29年10月、県東部地域のキャベツ及びブロッコリーの苗が枯死する被害が発生した。地際部にアリの寄生と食害痕が確認され、採取したアリを同定した結果、トビイロシワアリであることが判明した。本県における農作物への被害は初確認である。
- (2) トビイロシワアリは屋久島以北の日本各地に分布し、西南に日本では最も普通に見られる種のひとつである。農作物への被害は、福岡県、千葉県、広島県、香川県、佐賀県、長崎県、山口県、滋賀県、群馬県、茨城県、静岡県から報告があり、キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、バレイショ、ナス及びアスター等で被害が確認されている

3 本種の特徴

- (1) 働きアリの体長は約2.5mm、体色は褐色から黒褐色で、頭部及び胸部の表面は縦じわに覆われている（写真1、2）。
- (2) 本種は雑食性で、昆虫などの死体、雑草の子実や発芽直後の芽、植物の甘露、樹液などを食べます。
- (3) 比較的乾燥した場所を好み、日当たりのよい裸地や草地などで、草の根元、石の下や腐朽木中に巣を作る。巣の規模は大きく、1つの巣に多数の女王アリを有する。

4 被害の特徴

株元に土を盛ったり、地際の茎や根の表皮を加害してくぼんだ加害痕を形成する結果、株全体を弱らせる。

5 防除対策

現時点では、本虫に対する適用薬剤はないため、深耕やかん水による巣の破壊など物理的・耕種的な防除に努める。



(写真1) 成虫の側面
触角は12節からなり、触角こん棒部は3節よりなる。



(写真2) 成虫の背面 腹柄は2節ある。



(写真3) 被害を受けたブロッコリー苗の地際部の食害の様子



(写真4) 被害を受けた苗